

東海道一の賑い " 宮宿 " の様子を再現



東海道道標は東海道と美濃路の分岐点に位置しており、交通の要所として重要な地点でした。道標から北の方角には熱田神宮、南の方角には桑名を結ぶ海路「七里の渡し」があり、宮宿周辺は行き交う人々で賑わいをみせていました。

今回、熱田区役所の事業として、東海道道標周辺の宮宿の町並みを、広島大学名誉教授の三浦正幸氏に監修を受け復元を行いました。

復元した町並みは東海道道標への来訪者が、自由に見ることができるよう VR による表示を行いました。

1 資料調査

絵図や古地図を元に、復元の基礎資料を収集しました。また、古地図と現在の地図を比較して、おおよその道幅を算出し、復元の参考にしました。

調査の結果、東海道と美濃路が交差する三叉路の突き当りには源太夫社（上知我麻神社）があったことが確認できました。また、露店による魚市場があり、通りを行き交う人々の姿が描かれていることが確認できました。



現在の東海道道標



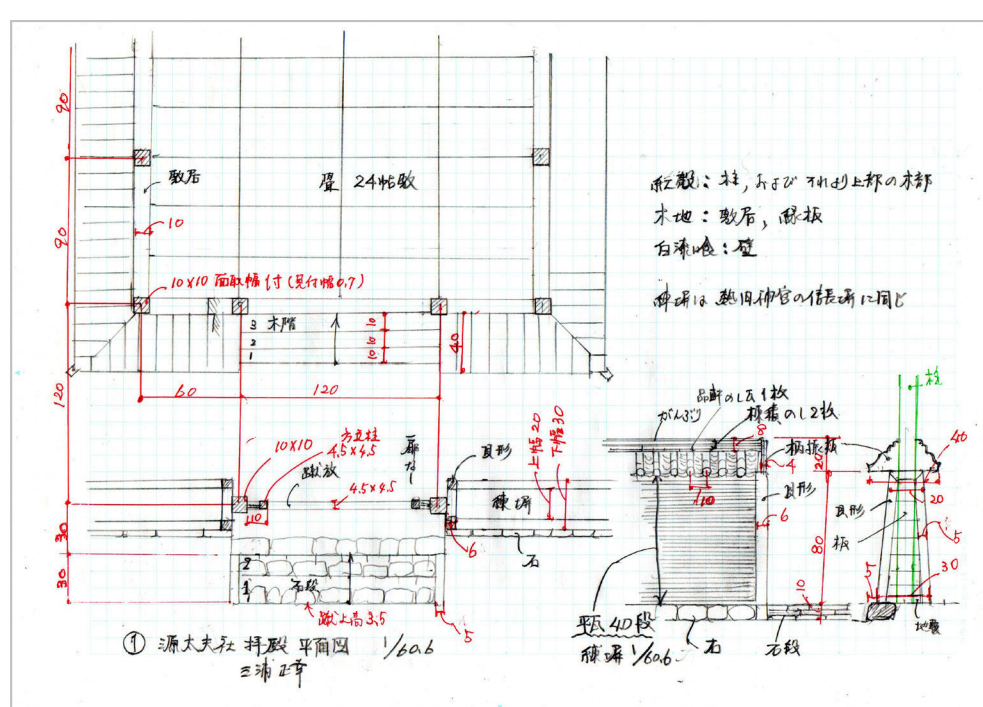
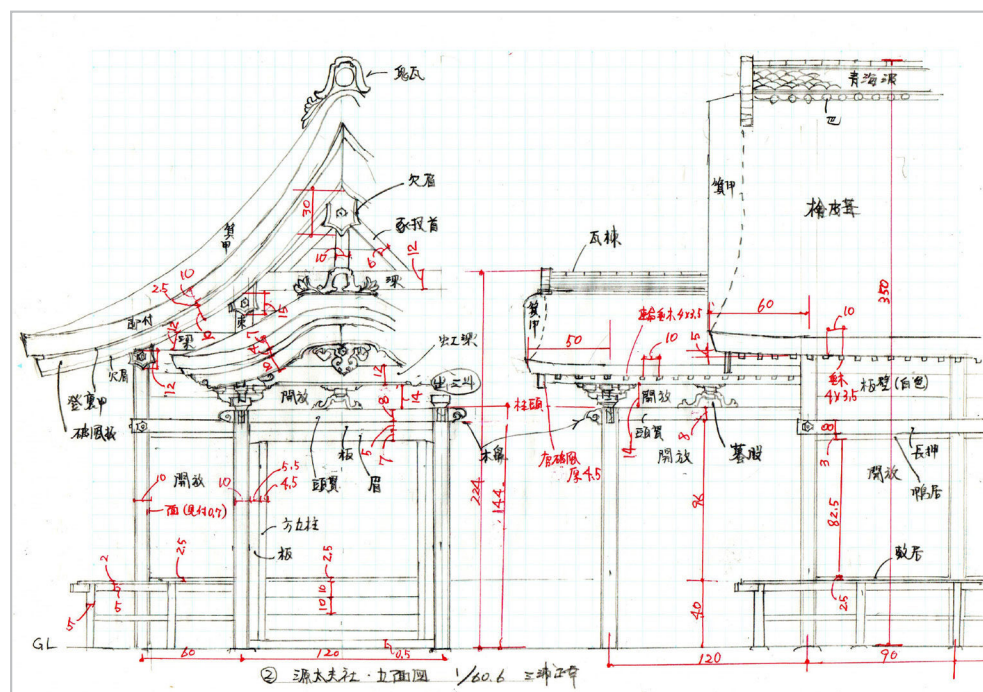
『目で見える名古屋の100年』上巻（一部加工）（郷土出版社、1999年）



岡田啓、野口道直撰『尾張名所図会前編』巻四
（国立国会図書館デジタルコレクションで公開されているものに着色・加工）

2 復元図の制作

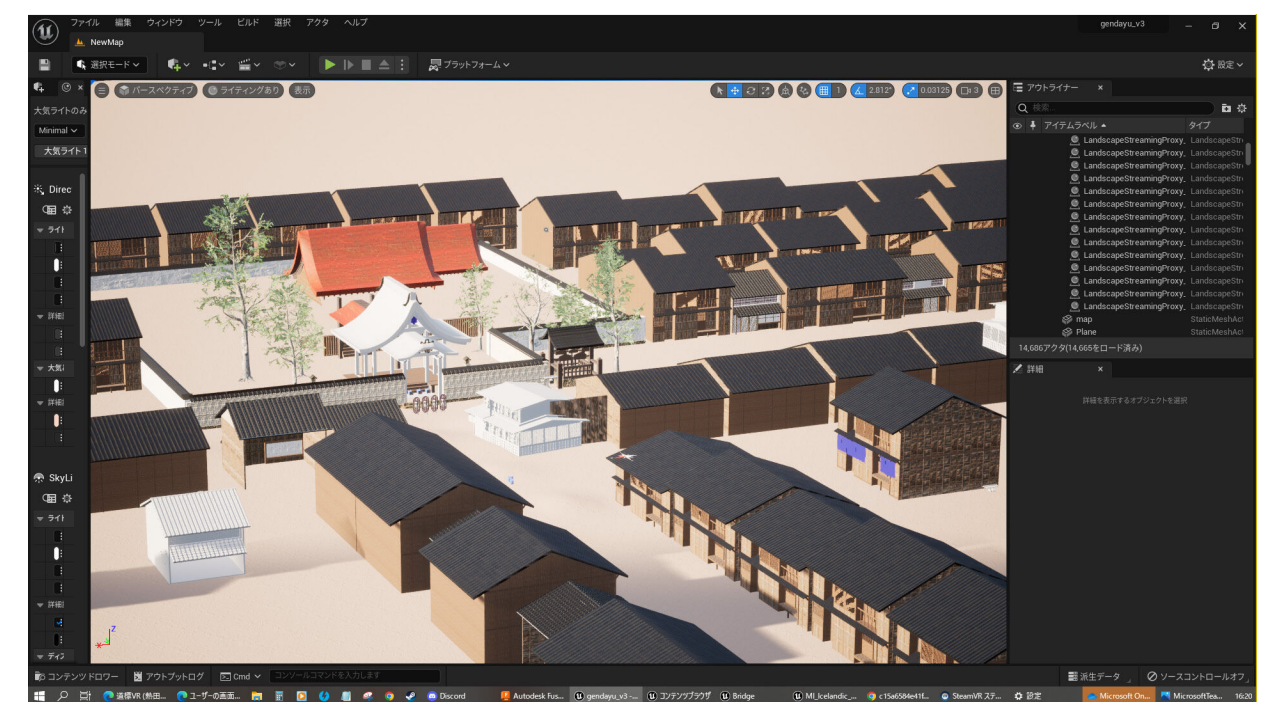
調査によって得られた資料を基に、道標周辺の主要な建造物である、源太夫社の復元図を作成しました。復元図は、三浦氏によるものです。



熱田曲輪図（西尾市岩瀬文庫蔵）

3 3DCG の制作

復元図を元に、町屋や源太夫社の 3DCG を制作しました。古地図から算出したおおよその区画に合わせて、制作した 3DCG を配置し、町並みを復元しました。通りの賑わいを再現するために、絵図から書き起こした人物のイラストを 3DCG 内に配置しました。



制作：名古屋学院大学

4 VR による再現

制作した、3DCG を VR（バーチャルリアリティ）で表示するために、現地看板に二次元コードを設置しました。二次元コードを読み取ると、東海道道標周辺の当時の町並みが閲覧でき、現在の様子と比較することができます。



VRの表示イメージ



なごや歴史探検アプリ
ダウンロードは二次元コードから
3DCGは2022年11月1日に公開



VRで復元 東海道の様子

なごや昔カメラ

江戸時代この場所は東海道と美濃路（佐屋路）の分岐点でした。当時ここには「宮宿」という宿場町があり、熱田神宮の門前町であることや、桑名宿に渡るための宮の渡し（七里の渡し）もあったことから、東海道随一といわれる賑わいがありました。当時の賑わいの様子を、VR（バーチャルリアリティ）で再現しました。二次元コードをスマートフォンで読み取ると、江戸時代のこの場所の様子が表示されます。

なごや歴史探検アプリをダウンロード！

ダウンロードはこちら

愛知県名古屋市の歴史に触れたり、文化遺産や観光スポットなどの情報を知ることができる名古屋観光案内アプリです。

なごや NAGOYA

制作：熱田区役所 ☎052-683-9425

現地に設置予定の看板

監修：広島大学名誉教授 三浦正幸 制作：ナカジャククリエイティブ株式会社